



平成 18 年 5 月 17 日

各 位

会 社 名 株式会社フライトシステムコンサルティング  
代表者の役職氏名 代表取締役社長 片 山 圭 一 朗  
(コード番号：3753 東証マザーズ)  
問 い 合 せ 先 取 締 役 松 本 隆 男  
電 話 番 号 03 - 3440 - 6100 (代)

## 平成 18 年 3 月期 業績予想の修正に関するお知らせ

平成 18 年 2 月 15 日の平成 18 年 3 月期第 3 四半期業績状況発表時に公表いたしました平成 18 年 3 月期 (平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日) 個別業績予想、及び同日に公表いたしました連結業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 平成 18 年 3 月期個別業績予想数値の修正 (平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

(百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,434	50	29
今回修正予想 (B)	1,431	27	24
増減額 (B-A)	△3	△23	△5
増減率	△0.2%	△46.0%	△17.2%
前期実績 (平成 17 年 3 月期)	1,249	4	△15

#### 2. 平成 18 年 3 月期連結業績予想数値の修正 (平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日)

(百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	1,849	65	37
今回修正予想 (B)	1,843	21	8
増減額 (B-A)	△6	△44	△29
増減率	△0.3%	△67.6%	△78.3%
前期実績 (平成 17 年 3 月期)	-	-	-

### 3. 平成 18 年 3 月期業績予想数値修正の理由

地上デジタル放送や携帯・移動体向けデジタル放送（ワンセグ）の開始にともなう市場拡大により、売上高自体は順調に推移してきており、営業状況としては順調な一年でした。個別売上高は、ほぼ前回公表通りであり、当会計年度期首の予想（1,482 百万円）に対しても 96.5%の達成率の見通しであります。連結売上高も、ほぼ前回公表通りの見通しであります。

#### (1) 個別の業績修正

しかしながら、個別利益に関しましては、下記要因が大きく影響いたしました。

1つは、当社の製品「Total Cluster」を用いてシステム構築していた案件において、そのお客様がベンチャー企業育成のための投資事業組合の資金を活用して事業活動をしており、本年 1 月以降の市況環境により投資事業組合側の追加投資の見直しが入り事業計画が大幅に変わったため、計画半ばで当該事業におけるシステム開発が突然中止されてしまいました。当社としては最低限そのお客様への対応にかかった原価に関しては回収できたものの、利益として期待していた部分が開発中止により見込めなくなりました。

もう 1 つは、本年 4 月 1 日稼働予定で受注しましたお客様の新規サービスのためのシステム開発において、責任をもって予定日にサービスを開始させるために、協力会社からの開発技術者を当初計画以上に増員して対応した結果、外注加工費が予定より多くなりました。

#### (2) 連結の業績修正

1 月 6 日付けで株式を 100%取得した子会社 3 社の連結調整勘定（通称、のれん代）の償却金額が想定額より増加することが判明いたしました。またこの 3 社の子会社化により、従来は連結子会社がなかったため持分法による連結評価をしていなかった米国の関連会社、ブレケケ・ソフトウェア社の株式に関しまして持分法による投資損失を算定して組み入れることとなりました。ブレケケ・ソフトウェア社は実質的には昨年 5 月から製品がリリースされたばかりのスタートアップ段階のベンチャー企業であり、何回かの増資を経て製品開発を続けている途上であります。

以上の結果として、平成 18 年 3 月期の業績修正予想は、個別経常利益は 27 百万円（前回公表予想比△46.0%）、連結経常利益 21 百万円（前回公表予想比△67.6%）、連結当期純利益 8 百万円（前回公表予想比△78.3%）となります。

（注）業績予想につきましては、当社が現時点で合理的であると判断する一定の条件に基づき作成しており、実際の業績は予想と異なる場合があります。

以 上